

日本臨床検査医学会ニュース

平成20年度第2回日本臨床検査医学会

臨床検査専門医審議会 だより

日時：平成20年3月29日(土)10:30~11:30
場所：日本臨床検査医学会 事務所
出席者：宮澤幸久委員長，松野一彦，土屋達行，
高木 康，村田 満，水口國雄 各委員長
佐藤尚武 専門医会代表(7名)
欠席者：高橋伯夫，渡邊 卓(2名)

委員長挨拶

宮澤幸久委員長より開会の宣言があり議事が進行された。

報告事項

1. 研修施設・指導者認定委員会報告

(松野一彦 委員長)

2008年7月1日付再認定予定の施設について報告があった。今回は、認定病院(認定期間2年)6施設が再認定申請の予定。また保留状態の3施設からも申請がある見込みであることが報告された。

研修施設の再認定での保留期間に期限を設けることとした。研修施設の規定を変更する。

2. 臨床検査管理医セミナーの開催予定について

(高木 康 委員長)

第1回臨床検査管理医セミナー日程が、他の行事との重複，講師等の都合により，5月25日から5月10日に変更になったことが報告された。

第1回：平成20年5月10日(土)10:30~15:30
昭和大学医学部

第2回：平成20年11月30日(日)午前中
名古屋国際会議場

3. 日本専門医認定機構からの専門医制度整備基準認定証(高木 康 委員長)

日本専門医認定機構の専門医制度整備基準について，本会臨床検査専門医制度は承認されて，認定証の発行されたことが報告された。なお，認定期間は3年間である。

審議事項

1. 臨床検査管理医過渡的措置認定の追加審査について(高木 康 委員長)

臨床検査管理医の昨年の申請者1名の認定が漏れていたため平成19年12月22日に遡っての認定が承認された。

2. 第25回臨床検査専門医認定試験について

(高木 康 委員長)

- 1)再受験も含めた願書内容を確認した。
- 2)試験実行委員会委員(案)が提示されて承認された。

3. その他

特になし。

次回以降の臨床検査専門医・管理医審議会日程。

第1回：3月29日(土)10:30~11:30

第3回：8月23日(土)10:30~11:30

第4回：11月8日(土)10:30~11:30

※議事がない場合は不要。

第5回：12月20日(土)12:00~

日本臨床検査医学会

平成19年度に係る定時社員総会 だより

日時：平成20年3月29日(土)12:00~12:30

場所：日本臨床検査医学会 事務所
東京都千代田区神田小川町2丁目2番
UIビル2階 TEL:03-3295-0351

出席者：宮澤幸久理事長，高橋伯夫副理事長，
高木 康総務理事，玉井誠一会計理事，
米山彰子庶務理事，矢富 裕，諏訪部章，
松野一彦，登 勉，石 和久，村田 満，
伊藤喜久，宮地勇人，溝上雅史，
三家登喜夫，小出典男 各理事
戸谷誠之，中原一彦 各監事
酒井富雄 顧問(公認会計士)

欠席者：熊谷俊一，福武勝幸，荏原順一，犀川哲典
各理事(4名：委任状あり)

会議の目的事項

決議事項

第1号議案 計算書類承認の件

事業報告書、貸借対照表、損益計算書、損失処理案、監査報告書が提示され、玉井誠一会計理事、酒井富雄会計顧問より説明がなされ戸谷誠之、中原一彦監事より監査報告があり、本事項は承認された。

以上

日本臨床検査医学会
平成20年度第2回理事会 だより

日 時：平成20年3月29日(土)12:30~16:00

場 所：日本臨床検査医学会 事務所

出席者：宮澤幸久理事長、高橋伯夫副理事長、
高木 康総務理事、玉井誠一会計理事、
米山彰子庶務理事、矢富 裕、諏訪部章、
松野一彦、登 勉、石 和久、村田 満、
伊藤喜久、宮地勇人、溝上雅史、
三家登喜夫、小出典男 各理事
戸谷誠之、中原一彦 各監事 (18名)
検査項目コード委員会審議事項説明時：

山田悦司委員陪席

欠席者：熊谷俊一、福武勝幸、荏原順一、犀川哲典
各理事(4名：委任状あり)

開会に先立ち、名誉会員 清水章先生(70歳)の御逝去(平成20年1月30日)にを悼んで黙祷した後、宮澤幸久理事長の挨拶があった。その後、登勉理事、小出典男理事を議事録署名人に定め、議事を進めた。

【報告事項】

1. 支部報告

北海道支部報告(伊藤喜久 支部長)

1. 支部総会の予定

第42回支部総会

期 日：平成20年9月20日(土)

場 所：札幌医科大学

総会長：渡邊直樹 教授

内 容：特別講演、一般演題

東北支部報告(荏原順一 支部長欠席の為、
諏訪部章 理事)

1. 支部総会の予定

第40回支部総会

日 時：平成20年7月26日(土)

10:00~18:00

場 所：岩手医科大学60周年記念館

9階講義室

総会長：諏訪部章

(岩手医科大学臨床検査医学 教授)

内 容：シンポジウム「循環器疾患の診断と
治療評価の進歩」(仮題)(公募)

教育講演「院内感染対策関連」(仮題)

福島県立医科大学感染制御・

臨床検査医学 金光敬二 教授

特別講演「ポストゲノム関連」(仮題)

千葉大学大学院医学研究院分子病態

解析学病院検査部・遺伝カウンセリ

ング室 野村文夫 教授

事務局：岩手医科大学医学部臨床検査医学講座内

電話：019-651-5111(内線3249)

FAX:019-624-5030

2. 支部例会の予定

第32回支部例会

日 時：平成20年11月か12月はじめ

場 所：未定

例会長：荏原 順一

(秋田大学医学部臨床検査医学 教授)

内 容：未定

事務局(連絡先)：秋田大学医学部臨床検査医学内

電話：018-884-6201 FAX:018-836-2624

関東・甲信越支部報告(宮地勇人 支部長)

1. 支部総会の予定

第20回支部総会

日 時：平成20年10月4日(土)

場 所：慶応義塾大学

総会長：村田 満(慶応義塾大学 教授)

内 容：未定

2. 支部例会の予定

第65回支部例会

日 時：平成20年5月17日(土)

13:00~17:00

日本臨床検査医学会ニュース

場 所：ホテルセンチュリー相模大野
フェニックス(小田急線相模大野駅上)
例会長：内山幸信(北里大学東病院 教授)
内 容：「基礎と臨床の融合」
特別講演「マウス臍帯血移植実験モデルの
開発と臍帯血幹細胞の解析」
北里大学医学部免疫学 篠原信賢
微生物「迅速検査とデータが支える抗菌薬の
適正使用」
北里大学医学部微生物・寄生虫学
北里大学病院・感染管理室 松下 治
香川大学医学部附属病院 樋口和子
石井典子, 梶ヶ山清
「子宮頸癌検診と HPV 検査」
順天堂浦安病院臨床検査医学科 喜納勝成
石 和久
臨床化学「心筋梗塞予知検査の開発」
北里大学大学院医療系研究科 小川善資
「動脈硬化性疾患と臨床検査：
今や全身の動脈を診る時代」
北里大学医学部循環器内科学 青山直善
細胞診「北里大学における細胞検査士教育」
北里大学医療衛生学部臨床細菌学 服部 学
西村由佳里, 大部 誠

3. 評議員の異動について

メ谷直人(旧 獨協医科大学越谷病院)一
東海北陸支部(新 国際医療福祉大学熱海病院)

東海・北陸支部報告(溝上雅史 支部長)
日本臨床検査医学会東海・北陸支部幹事会報告
日時：平成20年3月8日(土)18時~20時
場所：富山国際会議場 大手町フォーラム
201 会議室

議題

1) 報告事項：

1. 前回幹事会(平成19年9月1日(土)開催)
議事録の承認
2. 理事会報告
3. 第26回支部例会(名古屋大学高松純樹例会長
平成19年9月1日, 名古屋市)について報告
4. 第47回支部総会(富山大学北島勲総会長
平成20年3月9日, 富山市)について報告
5. 第27回支部例会(聖隷浜松病院米川修例会長

- 平成20年8月31日, 浜松市)について報告
6. 第48回日本臨床化学会(浜松医大前川真人会
長 平成20年8月29~31日, 浜松市)につ
いて報告
 7. 第55回日本臨床検査学術集会(三重大学登勉
学会長 平成20年11月27~30日, 名古屋
市)について報告
 8. 第48回支部総会(岐阜大学清島満総会長 平
成21年3月8日, 岐阜市)について報告
 9. 第28回支部例会(福井県立病院例木藤知桂志
例会長 平成21年8月予定, 福井市)につ
いて報告
 10. 第58回日本臨床検査医学会学術集会長推薦に
ついて
平成23年は当支部からの推薦はしない。

2) 協議事項：

1. 平成19年度決算 承認
2. 平成20年度予算 訂正し持ち回りで承認の予定
3. 新名誉会員, 功労会員, 評議員の推薦について
幹事 藤田保健衛生大学石井潤一先生, 金沢
大学和田隆志先生が推薦され認められた。
監事 名古屋大学高松純樹先生, 名古屋液済
会深津俊明先生が推薦され認められた。
4. 第29回支部例会(平成22年夏)例会長は三重
大学登勉先生が推薦され認められた。
5. 第49回支部総会(平成22年3月)総会長は名
古屋市立大学溝上雅史が推薦され認められた。
6. 臨床化学会との共催はその都度相談すること
とする。
7. その他

1. 支部総会の予定

第47回支部総会

日 時：平成20年3月9日(日)

場 所：富山国際会議場

総会長：北島 勲

(富山大学医学部臨床検査医学 教授)

内 容：日本臨床化学会東海北陸支部例会との
合同開催

2. 支部例会の予定

第27回東海・北陸支部例会

日 時：平成20年8月31日(日)

場 所：静岡文化芸術大学(浜松市)

例会長：米川 修(聖隷浜松病院 部長)
内容：日本臨床化学会全国学術集会・支部総会(前川真人会長)と合同開催

日時：未定
場所：岡山大学医学部臨床第二講義室
総会長：岡崎俊朗(鳥取大学医学部臨床検査医学講座 教授)

近畿支部報告(三家登喜夫 支部長)

内容：未定
事務局(連絡先)：未定

1. 支部総会の予定

第51回支部総会

E-mail: rinkin@m.ehime-u.ac.jp

日時：平成20年10月18日～19日

場所：兵庫医療大学(神戸市)

総会長：小柴賢洋(兵庫医科大学臨床検査医学)

内容：近畿医学検査学会、日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会と同時開催、共通のキャッチフレーズ：「はばたこう未来へ」

事務局(連絡先)：事務局長 小坂英和(兵庫医科大学臨床検査部学内講師)

電話：0798-45-6865, Fax：0798-45-6977,

E-mail: kosakah@hyo-med.ac.jp

運営委員長 戊角幸治(兵庫医科大学臨床検査部主任技師)

電話：0798-45-6315, Fax：0798-45-6317,

E-mail: inuzumi@hyo-med.ac.jp

2. 支部例会の予定

第53回支部例会

日時：平成20年6月14日

場所：大阪大学医学部銀杏会館

例会長：日高 洋(大阪大学大学院医学系研究科臨床検査診断学講座)

内容：テーマ：ルーチン検査から研究へ

事務局(連絡先)：大阪大学医学部附属病院臨床検査部(担当：高野 徹)

〒565-0871 吹田市山田丘2-15

電話：06-6879-6636, FAX：06-6879-6635

E-mail: ttakano@labo.med.osaka-u.ac.jp

中国・四国支部報告(小出典男 支部長)

1. 支部総会の予定

第54回日本臨床検査医学会中国・四国支部総会

第149回日本臨床化学会中国支部例会・総会

第19回日本臨床化学会四国支部例会総会 合同地方会

2. 委員会報告

A. 学術推進化委員会(矢富 裕 担当理事)

平成17・18年度研究課題の研究報告書、会計報告書が提出されたが、その内会計報告に3件ほどに疑義があるため、委員会を開催して検討する予定であることが報告された。

B. 編集委員会(熊谷俊一 担当理事 欠席のため

矢富 裕 委員長)

1. 編集委員の交代について

以下の委員が任期満了となりました。4年間ありがとうございました。

北村 聖委員長

大澤 進委員, 片岡浩巳委員, 小宮山豊委員, 大谷直人委員, 島津千里委員, 玉井誠一委員,

東 克巳委員, 米山彰子委員

本年度よりの新委員(任期4年)

矢富 裕 先生 東京大学医学部附属病院検査部

石田 博 先生 山口大学医療情報部

渭原 博 先生 東邦大学大橋病院臨床検査部

奥村伸生 先生 信州大学医学部保健学科
検査技術科学

賀来満夫 先生 東北大学大学院医学系研究科
内科病態学講座

谷口信行 先生 自治医科大学臨床検査医学

福田篤久 先生 大阪府立泉州救命救急センター

細萱茂実 先生 山梨大学医学部附属病院検査部

横田浩充 先生 東京大学医学部附属病院検査部

2. 投稿論文について

①投稿されてから40日以内に著者へ結果報告する。なお査読期間は3週間以内。

現在、受理後掲載までの期間は3ヶ月以内となっている。

②2007年採択率について

総投稿原稿数は70編あり、内46編を受理し、3

日本臨床検査医学会ニュース

編が返却となった。採択率は66%となった。

③2007年投稿論文カテゴリーについて

投稿論文をカテゴリー別に分類すると

臨床化学：14編，内分泌・代謝学：1編，免疫学・輸血学：6編，血液：5編，感染症(微生物)：10編，生理機能検査：3編，病理：5編，遺伝子検査技術関連領域(分子生物学的領域)：5編，精度管理・医療情報：4編，その他：6編であった。

④投稿論文を増やすための方策として

アジア臨床病理学会一般演題発表者に依頼を行った。

クアラランプールのWASPALM会議で小冊子を配布した。

英文投稿規定の作成，変更等。

座長推薦論文(編集委員のみの審査)

臨床検査技師養成施設に依頼して博士論文，修士論文を集める。

本誌はMEDLINEに収録されている。諸外国への寄贈数を増やす。

⑤超過頁について

超過頁が発生する論文については，投稿時に超過頁が発生する旨連絡する。

3. 座長推薦論文について

現在座長推薦論文の審査は編集委員のみで行っているが，論文の体裁をなしていない場合が多く，編集委員の負担が大きい。査読が必要ではないかとの意見があり検討を行った。

基本的には，今まで通り編集委員のみの審査で行うことが確認された。ただし編集委員長が必要と判断した場合には，査読委員による審査を行う。

4. 優秀論文賞の選出について

対象：1月から12月までに臨床病理誌に掲載された原著論文のなかから編集委員会で審査選定し，2編を表彰する。

掲載された論文を分野別に複数の編集委員にご審査頂き，各分野の上位のなかから次回編集会議において最終審査を行う予定である。

臨床病理4月号に編集委員長による「優秀論文賞」についてのお知らせを掲載する。また本賞受賞者は誌上にて発表する。

5. 投稿審査書

審査書に新たに以下の項目を設ける

- ・論文「区分」の適否

- ・研究倫理上の配慮がなされているか

変更箇所

- ・原稿枚数の表示を文字数に変更

6. 図表の英文について

投稿論文の図表は説明を含め英語とする。

7. 学会賞を受賞された方へ

総説として臨床病理誌へご投稿いただきたいというご意見があった。

【検討事項】

1. コレスポンディングオーサー制度について

投稿原稿において，指導者がきちんと見ていないのではないかとと思われる論文が散見される。

現状では，添付用紙に署名，捺印をしていただいているが，コレスポンディングオーサー制度を設けることで，責任著者が点検を行うようになるのではないか。

添付用紙に連絡著者(コレスポンディングオーサー)の項を設けたい。

2. 投稿規定の変更について

①原稿枚数の表示を文字数表示に変更する。

②研究倫理上の配慮についての項目を掲載する。

③執筆要領で400字詰めを廃止する。

④文献の著者名の記載を3名までとし，4名以上の場合にその他とする。

⑤区分「短報」は意義が不明であり，不必要ではないか。

3. 退任，新任講演について

3月で退任される教授の最終講義を「退任記念講演」と題し，また，新年度より教授に新任される先生には「新任記念講演」と題し，それぞれ総説原稿を掲載してきた。また，本年より，技師長，市中病院の検査部長についても同様に，これまでの臨床検査におけるご経験をご披露いただければ，本誌の読者の益するところ大との結論になった。

この際，ご依頼に漏れがあってはいけないので，各支部で把握されている退任・新任の教授，技師長，部長の最新情報をご連絡いただくこととする。

C. 教育委員会(諏訪部 章 担当理事)

1. 卒後研修カリキュラム改訂版を作成した。

2. 卒後研修カリキュラムに沿った評価表の作成を行っている。

D. 臨床検査点数委員会(米山彰子 委員長)

今回は委員会は開催されていない。

平成 18 年 12 月に当学会から厚生労働省に提出した「医療ニーズの高い医療機器等に関する要望」についての報告が、内保連を経由して届いた。

アンブリチップ CYP450 のみが選定され、現在申請中となっている。

前回同様の募集が来たので、再度評議員に要望調査を行い、委員会で選定して提出したい。

E. 学会賞委員会(矢富 裕 担当理事)

平成 20 年度学会賞選考日程(案)

4 月 1 日：評議員へ郵送，メールで候補者推薦案内(臨床病理誌 3 月号，ホームページに掲載)

5 月 31 日：学会賞候補者応募締め切り

6 月～7 月下旬：審査

8 月初旬～中旬：理事長へ学会賞選考結果報告
理事会での学会賞受賞候補者の審議(持ち回り理事会)

8 月中旬：受賞者への通知並びに受賞講演原稿依頼

8 月 23 日(土)：理事会

理事会後正式審査結果通知

8 月 31 日：学会賞各賞の抄録 臨床病理 補冊
原稿締切

**F. 精度管理委員会(高木 康 担当理事，
宮地勇人 委員長)**

1. 2008 年度 CAP サーベイ実施について

① 2008 年度 CAP サーベイは例年通り実施開始。

② 事務局担当をシノテストー コルビー・インターナショナル・グループに移管することを前提した具体的作業中(2008 年見習い，2009 年～単独実施)。

2. QC journal 発行の提案について

臨床検査(室)の精度管理(外部精度評価等)・精度保証や安全に特化した雑誌を季刊誌として発刊したい旨，コルビー・インターナショナル・グループより提案があったことについて検討され，どのような内容であるのか判断するため，見本を提出してもらい，再度，理事会で検討することとなった。

**G. 遺伝子委員会(村田 満 担当理事，
宮地勇人 委員長)**

報告内容

1. 日本臨床検査標準化協議会(JCCLS)の遺伝子関連検査標準化委員会WG-1との連携について

OECD(Organization for Economic Cooperation and Development:経済協力開発機構)ガイドラインは遺伝学的検査の質保証を担保する上で必要な原則(項目)とベスト・プラクティスについて記述されている。ガイドラインの発効にともない，WG-1では，「遺伝子関連検査に関する日本版ベストプラクティス・ガイドライン」の検討を行っている(2007年～)ガイドライン作成において，明らかとなった課題は以下のごとく。

- ① 指導監督，測定者の資質を評価する仕組みがない。
- ② 検査機関の登録，認可，立入調査の仕組みがない。
- ③ 外部精度管理調査の実施項目が限られている。
- ④ 実態調査と情報蓄積によるフィードバックの仕組みがない。
- ⑤ 一般消費者(一般医師)が適正に利用する仕組みがない。

20 年度の検討方向として，日本臨床検査医学会遺伝子委員会は，学会内の各種委員会や日本臨床検査同学院と連携して，WG-1 の活動を支援する提案を行っている。

2. ファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針(案)について

遺伝子委員会での検討作成したファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針(案)について，日本臨床検査標準化協議会(JCCLS)遺伝子関連検査標準化専門委員会に対して，関係学会，団体との調整のもとでの検討を依頼した。

2月13日の遺伝子関連検査標準化専門委員会会議にて審議した結果，以下のごとく決定した。

- ① 暫定的な案(4月～)は，日本臨床検査医学会と日本人類遺伝学会とで調整する。
- ② 運用上の枠組み等は，検査に関する部分について，JCCLS遺伝子関連検査標準化専門委員会内に小委員会を設置して検討する。

H. 標榜科検討委員会(宮澤幸久 担当理事)

第 2 回標榜科検討委員会

日 時：平成20年1月20日(木)15時10分～17時00分

日本臨床検査医学会ニュース

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：宮澤幸久(委員長)，中原一彦，高木 康，
福武勝幸，小出典男，渡辺清明，
高橋伯夫，荻原順一，水口國雄，
熊谷俊一

1. 臨床検査科が標榜科として認可されることの意義

前回議事録をもとに，臨床検査科が認可されたことの意義，またその内容について本学会としての見解をまとめることの必要性などについて，各委員から活発な討論がなされた。

2. 標榜科としての臨床検査科

医療の質を保証し国民の健康を推進するためには，臨床検査が安全かつ適切に行われ，その情報が適切に医師や患者に提供されているかを検証するとともに，臨床検査を適切に実施しその結果を正しく解釈するための専門診療科の存在が必須である。臨床検査科では，検診などで検査異常が有する患者，検査異常についてのセカンドオピニオンを希望する患者，他の医師から紹介された検査異常のある患者などを対象として，検査結果の専門家的解釈や診断確定のための検査計画作成など，アドバイスと検査実施を行う。

上記のように委員会としての見解を基本として，各機関・施設毎に合うような形で標榜科がなされていくことを望み，本会としては，外来を開いて頂くこと，活用して頂くことでより広く周知したい。なお，本委員会は，これで議論は一旦終了とすることが報告された。

I. 学術集会委員会(登 勉 担当理事)

本日，理事会終了後に本委員会を開催して，各プログラムの調整と各専門領域の企画について審議予定であることが報告された。

J. 臨床検査専門医審議会(宮澤幸久 審議会委員長)

午前の臨床検査専門医・管理医審議会での報告事項と審議事項が報告された。これは，本審議会だよりに内容が記載されているため，割愛する。

3. 第 55 回日本臨床検査医学会学術集会報告

(登 勉 会長)

平成 20 年 11 月 27 日(木)～30 日(日)に，名古屋

国際会議場で，メインテーマは「進化する臨床検査」～病気の予防・診断から治療選択まで～で開催予定であり，11 月 30 日には津市で公開セミナーを行うこと，2 月にホームページアップをしたこと，3 月 8 日に開催した第 1 回プログラム委員会を開催したこと，一般演題は口演のみとして，6 月 20 日頃の締切で演題募集を行う予定であること等が報告された。

4. 第 56 回日本臨床検査医学会学術集会報告

(松野一彦 会長)

平成 21 年 8 月 26 日(水)～29 日(土)に，札幌コンベンションセンターで，「拡大する検査の力」というテーマで開催予定で，一般演題受付を 4 月中に行う予定であることが報告された。

5. 第 57 回日本臨床検査医学会学術集会報告

(宮澤幸久 会長)

平成 22 年 9 月 9 日～12 日に，東京の京王プラザホテルで開催予定である。第 56 回学術集会から丁度 1 年期間が空いているので，準備も支障ないものと思われると報告された。

6. 日本専門医認定機構からの専門医制度整備基準認定証(高木 康 理事)

日本専門医認定機構の専門医制度整備基準で本会臨床検査専門医制度は承認されて，認定期間は 3 年間の認定証が発行されたことが報告された。

7. 新名誉会員，功労会員，評議員の推薦について(宮澤幸久 理事長)

それぞれの推薦資格，各支部の名誉会員，功労会員該当者名簿，新評議員定員が提示され，各支部に昨年同様 9 月 30 日締切で推薦依頼がなされた。

また，評議員で再任手続の未申請者，2 年以上の会費未納者が提示され，各支部より評議員継続か否かの意向の確認をお願いした。

8. 第 58 回(平成 23 年度)学術集会の推薦について(宮澤幸久 理事長)

各支部に 9 月 30 日締切で推薦依頼がなされた。

9. 厚生労働省 医療ニーズの高い高度医療機器の募集について(宮澤幸久 理事長, 米山彰子理事)

臨床検査点数委員会でも報告したとおり, 昨年同様の本募集依頼があったため, 評議員に要望調査を行い, 委員会で選定し適切な要望を提出する予定であることが報告された。

10. 日本医学会評議員報告

(中原一彦 日本医学会評議員)

本年 2 月 22 日に日本医学会評議員会があり, 第 27 回日本医学会総会(2007/4/6~8)の終了報告及び平成 19 年度年次報告, 第 28 回日本医学会総会は 2011 年 4 月 8~10 日, 東京ビックサイトで矢崎義雄会頭のもと「開かれた医学・医療」というテーマで開催されること, 次期日本医学会会長, 副会長, 幹事選挙が行われたこと, 新規加盟の 3 学会, また「公益法人制度改革の概要」の説明があったことが報告された。

11. 技師の検査説明範囲について

(宮澤幸久 理事長)

2 月中頃, 厚労省医政局課長補佐井内氏を, 検査技師が 20ml を超えて採血することに対する許可を求めた学会からのお願いに対し, 「貴見のとおりと思料する」との返答いただいたことに対する御礼のために, 渡辺前理事長と宮澤幸久理事長が訪問した際に, 「技師の検査説明範囲」について質問した。返答は「原則的には, 検査(前)の説明にとどめる」。ただし, 採血量における考え方と同様に, 医師の指示・管理下にあつて行う際には, その詳細や内容については, 各医療機関によって決定された規定内で実施してもよい。あくまで, 問題が生じないように, 各医療機関でコンセンサスを受けた内容の中で行うようにとのことであった。

12. 各関連団体への推薦委員について

(宮澤幸久 理事長)

現在, 学会から各関連団体への派遣委員の一覧を提示した。

そして, 今回, 内保連の代表委員を福武勝幸先生から宮澤幸久理事長に交代すること, 日本医師会疑義解釈委員会の委員として, 渡辺清明先生と宮澤幸久先生を継続で推薦すること。

医療関連サービス振興会の衛生検査所専門部会 副部会長及び調査指導中央委員会 委員として佐守友博先生, 衛生検査所専門部会 委員として高木 康先生を継続して推薦すること, また, 日本医学会の評議員, 連絡委員, 医学用語委員, 医学用語委員代委員の推薦依頼が 4 月にあるが, 推薦依頼が推薦書到着次第, 常任理事会で検討して推薦を行いたいことについて報告された。

13. 各種送金について(玉井誠一 会計理事)

平成 20 年度の支部活動費, 専門医試験費用, 学術集会補助金, 顧問等の送金予定について報告された。

14. 就業規則について(高木 康 理事)

中間法人化し, 本年 12 月には一般社団法人ともなることもあり, 以前より話しの出ている就業規則を制定することとした。常任理事会で検討し次回理事会で決定したいことが報告された。

【審議事項】

1. 平成 19 年度会計収支決算報告について

(玉井誠一 会計理事)

平成 19 年度に係る定時社員総会で報告し承認済みである。

2. 平成 20 年度第 25 回臨床検査専門医認定試験実行委員会委員について(高木 康 委員長)

試験実行委員会委員(案)が提示されて承認された。

3. 旭川医科大学病院検体提供の件

(宮澤幸久 理事長)

マスコミで報道がされた標記について, 3 月 4 日に本会常任理事会で伊藤喜久先生に来ていただいてヒアリングを行い, 伊藤先生からは, 今回の経緯と状況説明をしていただいた。そして, 本会社員, 担当理事, 委員会委員長および委員の退任願いを受理し常任理事会ではそれを承認した。なお, 北海道支部長については, 支部からの推薦理事であるので, 北海道支部で検討していただくように依頼をした。

伊藤先生の退任に伴い, 学術推進化委員会として矢富裕先生, 臨床検査室医療評価委員会担当理事と

して米山彰子先生，受験・更新資格審査委員会委員として千葉仁志先生がそれぞれ承認された。

4. 臨床検査を終了した検体の業務，教育，研究のための使用について—見解—の改定について (宮澤幸久 理事長)

「臨床検査を終了した検体の業務，教育，研究のための使用について」の改定版を作成することについて倫理委員会(松野一彦担当理事)に依頼することについて検討され，承認された。

5. 検査項目コード委員会からの標準検査名称の使用許諾について

(玉井誠一 担当理事，山田悦司氏)

標準検査名称の使用許諾について

財団法人医療情報システム開発センター(以下，MEDIS-DC)より，以前に本委員会が検討・策定した「標準検査名称」を「MEDIS 臨床検査マスター」へ用いることについて承認要望があったことについて，以下の通り，経過，実際のコード及びシステム等について説明があり，検討のうえ承認された。

1) 経緯

平成 16 年に MEDIS-DC より，診療報酬名と JLAC10 の検査名称を包括する「標準検査名称」の作成について協力依頼があった。本委員会メンバーにて作業を行い，平成 17 年にその成果物ができあがり，同年 11 月の本委員会総会にて作業完了の旨を確認し，MEDIS-DC へ，その成果物を提出した。

その後，MEDIS-DC において，ホームページに掲載されている「MEDIS 臨床検査マスター」のバージョンアップ作業が行われ，前述の「標準検査名称」を加えた「新 MEDIS 臨床検査マスター」が作成された。

本年，MEDIS-DC より「新 MEDIS 臨床検査マスター」をホームページに掲載する際，この「標準検査名称」を日本臨床検査医学会が承認した名称とし，掲載したいとの要望があった。

2) 「標準検査名称」の内訳

検査項目：診療報酬点数が収載された検体検査で生理検査は除く 2207 項目

3) 検査項目名称統合のルール(案)

(1) 標準検査名称作成の基本ルール

名称表示は全角文字で記載し，構成は JLAC10 分

析物名を基本とし，必要に応じて材料名，検査方法名，セット項目名などを括弧付き()で付記する。

JLAC10 分析物名 + (材料名) + (検査方法)

識別名や補足情報に対しては [] を用いて区別する。

(2) 材料名の表示の仕方

① 現状

JLAC10 では材料を別にコード化しているので，必要最小限で分析物名に[]を付けて付記している。その際，尿中などの「中」は，原則として付けない。診療報酬では，区分名称が材料を指示している場合があり，項目名に▲▲中○○，○○(▲▲中)など，例外記載が入り，表記がまちまち。

② 表示方法

例えば，「尿中」の場合の「中」は記載しないこととし，()内に材料名を入れることとする。

(3) 検査方法の表示の仕方

① 現状

JLAC10 では検査方法を別にコード化しているので，必要時以外は原則として付記しない。診療報酬では，大きく「一般検査」と「精密測定」に分けている。ただし，各検査方法までは区別していない。

② 表示方法

「一般検査」・「精密測定」は表示せず，略称(例；CLEIA)で記載する。

(4) 検査方法に由来する結果表示の仕方

① 現状

・定性・定量について，JLAC10 では結果識別を別にコード化しているので，必要時以外は原則として付記していない。診療報酬では，一部に定性・定量を付けた記載があり，統一されていない。

② 表示方法

・定性・定量は，現在 JLAC10 の分析物に記載があるもの以外には原則として記載しない。

(5) 特殊文字等の表示の仕方

・ローマ数字は，基本的には算用数字で表示することとした。

・ギリシャ文字は使用可とし，必要時はそのまま記載することとした。

・上付き文字，下付き文字は基本的には使用しないこととした。

・「，」が入る項目名は，「.」として記載することとした。

6. その他(高木康 理事)

次回以降の理事会日程は、

平成 20 年度第 3 回 : 8 月 23 日(土),

第 4 回 : 11 月 8 日(土)で予定

閉会の挨拶

宮澤幸久理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。